

思考・判断・表現することを繰り返す言語活動を通して、

コミュニケーションを楽しむ外国語の学習

## I 外国語活動・外国語科研究の方向性

### 1 主題設定の理由

外国語教育においては、小学校から高等学校まで、「コミュニケーションを図る資質・能力の育成」を一貫する目標としており、段階的な資質・能力の育成を目指しています。特に小学校では、中学校以降における外国語教育の素地・基礎づくりという重要な役割を担っています。新学習指導要領では、新たに「思考力、判断力、表現力等」に関する目標が加わり、言語活動を通じた指導の充実を図ることが求められています。

前研究では、言語活動を充実させる学習づくりを進めたことにより、児童は、相手や目的、場面等を理解しながら安心してコミュニケーションを図ることができ、学習意欲を持続しながら語句や表現を身に付けることができました。一方で、児童を学習の主体とするための指導計画や、児童へのフィードバックの在り方、自分の思いや考えを深めることができるような自己評価の活用方法について、改善する必要があることが分かりました。

本校では、平成25年から4年間、文部科学省の研究開発学校に指定され、全学年で外国語教育に取り組んできました。全校児童へのアンケート調査からは、英語を話すことに楽しさを感じたり、もっと話せるようになりたいと感じたりする児童が多く、英語に慣れ親しむ経験を低学年から積み重ねてきた成果と捉えることができます。前研究の課題も踏まえつつ、本校の児童のよさを更に伸ばすためには、次のことが重要であると考えます。

- 児童が思いや考えをもちながら、十分にコミュニケーションを図ること。
- 自分の思いや考えを伝えられなかったことを振り返りながら改善できるようにすること。
- 話す楽しさや自分の思いや考えが伝えられた喜びを感じられるような活動を工夫すること。

全体研究では、「探究する子供を育てる教育活動の創造」を主題としています。それを受けて、外国語活動・外国語科における探究する児童の姿を、「コミュニケーション場面における気付きから活動への意欲を高め、自律的な学びを進めることで自信をもってコミュニケーションを図る児童」と押さえました。

以上の、外国語活動・外国語科として求められることと、本校の研究の成果と課題を踏まえ、研究主題を「思考・判断・表現することを繰り返す言語活動を通して、コミュニケーションを楽しむ外国語の学習」と設定しました。本研究を通して、語彙や表現等を使いながら身に付けたり、他者と思いや考えを伝え合ったりすることを往来しながら資質・能力を育む言語活動について明らかにしたいと考えました。そして、その言語活動を通して、資質・能力を育むとともに、コミュニケーションそのものを楽しむことができる学習を目指したいと考えました。

### 2 目指す児童の姿とその具体

**コミュニケーション場面における気付きから活動への意欲を高め、自律的な学びを進めることで自信をもってコミュニケーションを図る児童**

「コミュニケーション場面における気付きから活動への意欲を高め」とは、実際に英語を使ったやり取りをする活動から、既習や未習の語彙や表現等をどのように使っていくのか見通したり、活動に対する思いをもったりする姿です。また、「既習の語彙や表現等をもっと使えるようになりたい。」「新たな語彙や表現等を身に付けて活動してみたい。」など、意欲を高める姿でもあります。

「自信をもってコミュニケーションを図る児童」とは、語彙や表現等を実際のコミュニケーション場面で使うことで身に付け、生き生きと発揮する姿です。

## II 研究内容の具体

### 1 コミュニケーション場面における気付きを促す単元構成

コミュニケーションの場面における気付きは、言語活動を通して言語や文化を体験的に理解するきっかけとなり、単元全体の活動への意欲を高めることにもつながると考えました。ここでは、新たな語彙や表現等との出会い方や、既習の語彙や表現等の継続的な使い方について、明らかにしました。

#### 《活動のイメージを具体的にもたせるための活動の設定》

○単元の導入時に教師（HRTとALT・JTE）によるデモンストレーションを行ったり、アンケート結果や作品などを提示したりして、単元全体やゴールへのイメージをもたせる。

#### 《既習の語彙や表現等の定着を図る学習活動の設定》

○単元を通して、未習や既習の語彙や表現の定着を図るために、Warming Upや1単位時間における学習活動を工夫する（Small Talkの設定、「Let's Listen」などのデジタル教材の活用等）。

#### 《「Today's goal」につなげる「Demonstration」》

○教師のデモンストレーションを見せることで、前時との違いに気付かせ、本時のねらいをもたせる。

### 2 自信をもってコミュニケーションを図るための指導の工夫

自信をもってコミュニケーションを図るためには、語彙や表現等を実際のコミュニケーション場面で使ながら身に付けることが大切です。「聞くこと」「読むこと」によるインプット、「話すこと」「書くこと」によるアウトプットの段階やバランスを考慮し、無理のない活動や繰り返しのある活動を設定することで、効果的な指導ができると考えました。

#### 《単元で身に付ける語彙や表現等を使うActivityの工夫》

○単元の前半は「聞くこと」を中心に、後半は「話すこと」を中心に時間配分し、語彙や表現等に十分に慣れ親しませる活動を設定する。

○ペア同士のやり取りを取り入れることで、語彙や表現等を使うことに対する不安を軽減できるようにする。

○単元の中に、単元のゴールの活動に近い形（語彙を限定する、やり取りする対象を少人数にする、等）の活動を設定する。

#### 《「聞くこと」と「話すこと」をつなぐ「まねる」活動》

○ALTやJTEの口の形を真似して発音する。

○教師と教師のデモンストレーション、教師と児童のデモンストレーションをまねる。

#### 《短時間学習による補充》

○学習の進行状況に合わせて、短時間学習「朝の英語」を活用しながら、語彙や表現等の復習や「読むこと」「書くこと」に関する補充的な指導を行う。

### 3 コミュニケーションの楽しさにつなげる評価

児童が自らの学びを振り返り、コミュニケーションの楽しさを感じたり、次時へのめあてを立てたりすることは、意欲的に学習する態度につながると考えました。ここでは、児童が学びを振り返るための工夫について明らかにしました。

#### 《言語面での気付きを促すフィードバック》

○語彙や表現等を適切に使っている姿を見せて、やり取りのよいところなどに気付かせる。モデルとなる児童をタブレット端末で撮影し、映像を全員で見て振り返る。

○実際に教師が児童とやり取りを行い、誤りの訂正（リキャスト）や発話を促す誘導によるフィードバックを行う。表現に対する児童の思いを受け止めながら、即時的に行う。

#### 《学習への意欲を高めるリフレクションシート（振り返りカード）》

○「できたこと」「頑張ったこと」「コミュニケーションの楽しさについて」という視点で、自信をもつことができた場面を想起させた上で記述させる。

#### <1年次研究の重点>

- ・自信をもってコミュニケーションを図るための指導の工夫
- ・コミュニケーションの楽しさにつなげる評価

### Ⅲ 研究実践

## 3年生実践 『Unit7 This is for you.カードをおくろう』

実践のテーマ：欲しい形を集める表現を身に付け、  
自信をもって互いの思いや考えをやり取りする学習

### 1 研究授業のねらい

本単元では、“What do you want?”などの何が欲しいかを尋ねたり答えたりする表現や、三角形や四角形等の形に関する語句を身に付けることをねらいとしました。指導に当たっては、小学校外国語活動教材「Let's try! 1」の活動を生かして、単元のゴールとなる言語活動を「家族へ思いを伝えるカードを作っておくろう。」としました。単元の導入では、デジタル教材を活用して、世界には様々なグリーティングカードを送る文化があることを知る場面を設定しました。また、指導者を含む本校の教職員が実際に作成した家族や友人へのカードを提示しながら、活動に対する具体的なイメージをもたせたり、身に付ける語句や表現への目的意識をもたせたりしました。

語句や表現を身に付ける段階では、Small talkやシェイプ・クイズ、ポインティングゲーム等の多様な活動を設定し、本単元で用いる語句や表現に慣れ親しむ機会を十分にとりました。また、1単位時間における言語活動を充実させ、自分の思いや考えを伝え合ったり、その活動からコミュニケーションに対する自信につながった場面を振り返ったりできるようにしました。

以上の手立てによって、欲しい形を集める表現を身に付け、自信をもって互いの思いや考えをやり取りする学習を目指しました。

### 2 単元の指導計画（5時間扱い）

時	学習内容・活動内容	コミュニケーション場面における気付きから活動への意欲を高める児童の姿
①	<p><b>学習内容を知り、学習計画を立てよう。</b></p> <p>○HRTとJTEの会話から、世界の様々なグリーティングカードについて知る。 ○本時の学習のねらいを確認する。 ○クイズ「誰が誰に贈ったカード？」</p> <p><b>家族へ自分の思いを伝えるカードを贈ろう。</b></p> <p>【語句】形(square, rectangle, 等) 【表現】This is for you. / Thank you. 等</p>	<p>○HRTとJTE, ALTのやり取りを聞くことを通して、言語活動の目的や場面を把握し、意欲を高めている。</p>
②	<p><b>形に関する語句を身に付けよう。</b></p> <p>○ゲームを通して、形の名称や欲しいかどうかを尋ねたり答えたりする表現を身に付ける。 【語句】形(square, rectangle, 等) 【表現】Do you want? / ~, please. 等</p>	<p>○HRTとJTE, ALTのやり取りを聞くことを通して、言語活動の目的や場面を把握し、意欲を高めている。</p>
③ 未時	<p><b>何が欲しいか尋ねたり答えたりする表現を身に付けよう。</b></p> <p>○欲しい形を集めてイラストを作る活動を通して、何が欲しいか尋ねたり答えたりする表現を身に付ける。 【語句】形(square, rectangle, 等) 【表現】What do you want? / ~, please. 等</p>	<p>○語句や表現を身に付けることへ目的をもって活動している。</p>
④	<p><b>何が欲しいか尋ねたり答えたりするやり取りをして、家族へ自分の思いを伝えるカードを作ろう。</b></p> <p>○家族が好きな色やものについて、相手に伝えながら、欲しい形を集める。 【語句】形(square, rectangle, 等) 【表現】What do you want? / ~, please. 等</p>	<p>○自分の思いや考えを相手に伝えるために、語句や表現の身に付け方を振り返っている。</p>
⑤	<p><b>家族へどのような思い伝えるカードを作ったのか、交流しよう。</b></p> <p>○交流を通して、グリーティングカードを贈る文化への理解を深める。 【語句】形(square, rectangle, 等) 【表現】What do you want? / ~, please. 等</p>	
※ 音 読 聞	<p>※朝の英語（15分間）×4回（①～⑤時の間に設定） ○コミュニケーション活動を図る力を高める補充的な学習に取り組む。</p>	

### 3 本時の活動

目 標	欲しい形を集める活動を通して、何が欲しいかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	
語彙・表現 (単元)	未習	What ~ do you want? / ~, please. / 形 (square, rectangle, 等) など
	既習	color (red / blue など) , など
準 備	テレビ, 単語カード, コピーゲームの用具	
学習過程	学 習 活 動	
Warming Up 5分	1 Greeting 2 Small talk ・既習の表現を使ったやり取りをする。	
聞く・まねる (技能習得) 15分	3 Demonstration ・HRTとJTE, ALTによるデモンストレーションを見せる。 4 Today's goal <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>何が欲しいか尋ねたり答えたりする表現を身に付けよう。</b> </div> 5 Let's Chant ・デジタル教材 6 Activityの内容を知り, 試す。 ・HRTとJTE, ALTによるデモンストレーションを見せる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇自信をもってコミュニケーションを図ろうとする指導の工夫 <b>研究視点 2</b></p> <p>A L T 「Hi, Mr. Mimura. I have some questions. Do you want square?」          H R T 「No, I don't.」          A L T 「Do you want circle?」          H R T 「No, I don't.」          A L T 「Do you want diamond?」          H R T 「No, I don't.」          A L T 「Oh.... What do you want?」          H R T 「A triangle, please.」          A L T 「Here you are.」          H R T 「Thank you.」</p> </div>
使う (技能習得) 20分	7 Activity ・ペアで1チームとし, 活動を始める。 ----- 【作戦タイム】 ----- A1 : A2, what do you want? A2 : A green triangle. and a yellow circle. A1 : O.K. B1&B2, please come here. ----- 【実践タイム】 ----- B1&B2 : Hi! What do you want? A1 : A green triangle and a yellow circle, please. B2 : Here you are. A1&A2 : Thank you. Bye.  8 Check time ・モデルとなるペアの活動の様子をTVモニターで紹介する。 ・語句や表現を正しく使っているか, 表現で困っていることがないかどうか確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇自信をもってコミュニケーションを図ろうとする指導の工夫 <b>研究視点 2</b></p> <p>・前半は, A1とA2の役割を入れ替えて, 2回行う。          ・モデルとなるペアをiPadで記録しておく。</p> <p>【知識・技能】          「What do you want?」, 「~, please.」などの何が欲しいかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。</p> <p>◇コミュニケーションの楽しさにつなげる評価 <b>研究視点 3</b></p> <p>・前半が終わった時点で, 8に進む。          ・後半は, AとBの役割を入れ替えて再度7を進める。</p> </div>
振り返り 5分	9 Looking back ・欲しいものを尋ねることができた。 ・欲しいものを相手に伝えることができた。 ・形の名前をうまく言えたので伝えられた。 10 Greeting	
<p>◇授業の見所・本時で願っている児童の姿</p> <p>○「コピーゲーム」において, 何が欲しいかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる姿</p> <p>○Check timeにより, 自信をもったり, 次の活動への意欲につなげたりしている姿</p>		

## 4 授業の実際

### 自信をもってコミュニケーションを図るための指導の工夫

自信をもってコミュニケーションを図るためには、未習や既習の語句や表現等を身に付け、対話の中で使えるようにすることが必要です。本時では、以下の2点の活動を設定することにより、自信をもってコミュニケーションを図る児童を育てることを目指しました。

#### ① 「Today's goal」につなげる「Demonstration」

本時では、本単元で身に付ける「What do you want?」という表現を初めて扱いました。前時との違いに気付かせるために、十分に聞くことに慣れ親しむことが重要だと考え、教師によるDemonstrationを設定しました（前頁「3 本時の活動」参照）。前時で扱った、Yes/Noで答えを求める「Do you want ~?」ではやり取りがうまくいかない状況を見せる（聞かせる）ことにより、数あるものの中から何が欲しいのかを尋ねる表現である「What do you want?」を使う状況を理解させ、Today's goalにつなげることができました。

#### ② 単元で身に付ける語彙や表現等を使うActivityの工夫

Activityにおける言語活動は、単元のゴールの活動に近い形で設定することにより、語句や表現の定着を図ることができると考え、「コピーゲーム」を設定しました。コピーすべき基のイラストを見て、コピーするためにはどの形（色）をもらうことがよいのか、どのような順番でもらえばよいのかなど、思いや考えを伝え合う活動を意図的に設定するため、ペアでの活動としました。「話すこと」によるアウトプット中心の活動により、一人一人が「What do you want?」「~, please.」等の表現に慣れ親しむことができました。また、ペア同士で活動することにより、表現することに不安がある状況であっても、友達の表現を真似しながらやり取りを行い、自信をもってコミュニケーションを図ろうとする姿も見られました。しかし、コピーゲームのルールに複雑な点があったことから、どのようなやり取りをすればよいか分からない児童がいました。また、コピーするイラストと必要なパーツが完全に一致していたことから、「What do you want?」を使う必要性を感じられずに、単なる練習になってしまう状況も見受けられました。



【Activityに取り組む児童の姿】

### コミュニケーションの楽しさにつなげる評価

本時では、Activityの様子をタブレット端末で記録し、活動の中間に全体で視聴する時間（Check time）をとりました。モデルとなるやり取りを見せたあと、現在の自分の状況を振り返る時間を設定することにより、語句や表現を適切に使っているかを捉えたり、後半の活動に向けての意欲を引き出したりすることができました。また、欲しい形が相手に伝わらない場合に「Big / Small circle, please.」など、既習の表現を使いながらやり取りを続けようとしているペアの姿を見て、賞賛する声もありました。しかし、教師が児童と直接やり取りしたり、やり取りを通してリキャストしたりする時間が十分ではありませんでした。

## IV 1 年次研究の成果と課題

外国語では、研究主題を「思考・判断・表現することを繰り返す言語活動を通して、コミュニケーションを楽しむ外国語の学習」と設定し、「コミュニケーション場面における気付きを促す単元構成」「自信をもってコミュニケーションを図るための指導の工夫」「コミュニケーションの楽しさにつなげる評価」の3点を中心に研究を進めました。

1 年次研究では、「自信をもってコミュニケーションを図るための指導の工夫」と「コミュニケーションの楽しさにつなげる評価」を重点として研究を進めてきました。

### 1 研究の成果

- 「Today's goal」につなげる「Demonstration」を設定することにより、前時との違いに気付くとともに、本時で扱う状況を理解し、ねらいをもつことができました。
- 単元のゴールの活動に近い形式のActivityを設定することにより、一人一人が表現に慣れ親しむ時間を保障することができました。
- ペア同士での活動を取り入れることにより、表現することに不安がある状況であっても、友達の表現を真似しながらやり取りを行い、自信をもってコミュニケーションを図る姿が見られました。
- ICT機器を活用したCheck timeを設定することにより、語句や表現を適切に使っているかを捉えさせたり、後半の活動に向けての意欲を引き出したりすることができました。

### 2 今後の課題

- 活動する必然性が明確になるように、Activityの内容を設定していく必要があります。
- Check timeを充実させるために、ALTやJTEを含めた指導者の役割を明確にしたり、単元を通した見取りの計画を明確にしたりする必要があります。

## V 参考文献

- 小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 文部科学省 開隆堂 平成29年7月
- 小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック 文部科学省 平成29年6月
- 初等教育資料No. 976「特集Ⅰ 新学習指導要領全面実施を見据えた小学校外国語教育の在り方」  
文部科学省 東洋館出版社 平成31年1月
- 初等教育資料No. 983「特集Ⅰ 外国語活動・外国語科の指導の在り方」  
文部科学省 東洋館出版社 令和元年8月
- 初等教育資料No. 989「特集Ⅰ 中学年外国語活動, 高学年外国語科導入直前に押さえないポイント」  
文部科学省 東洋館出版社 令和2年1月
- 平成29年版小学校新学習指導要領ポイント総整理 外国語  
東洋館出版社 大城 賢 編著 平成29年10月
- 平成29年改訂小学校教育課程実践講座 外国語活動・外国語  
ぎょうせい 菅 正隆 編著 平成29年11月
- 初等外国語教育 卯城祐司 編著 ミネルヴァ書房 平成30年3月
- なぜ、いま小学校で外国語を学ぶのか 小学館 直山木綿子 監修 平成31年3月
- 英語教育 Vol. 67 No. 13 大修館書店 平成31年3月
- 英語教育 Vol. 68 No. 4 大修館書店 令和元年7月
- 英語教育 Vol. 68 No. 7 大修館書店 令和元年10月
- 英語教育 Vol. 68 No. 9 大修館書店 令和元年11月
- 英語教育 Vol. 68 No. 11 大修館書店 令和2年1月